

# 地盤の液状化対策費の助成について（概要）

地盤の液状化被害の可能性がある敷地に対して、地盤の液状化対策に要する費用の一部を助成することにより、地震による住宅の被害を軽減させ、災害に強いまちづくりを目指します。

## 1. 助成対象の要件（地盤調査に基づいて調査したもの）

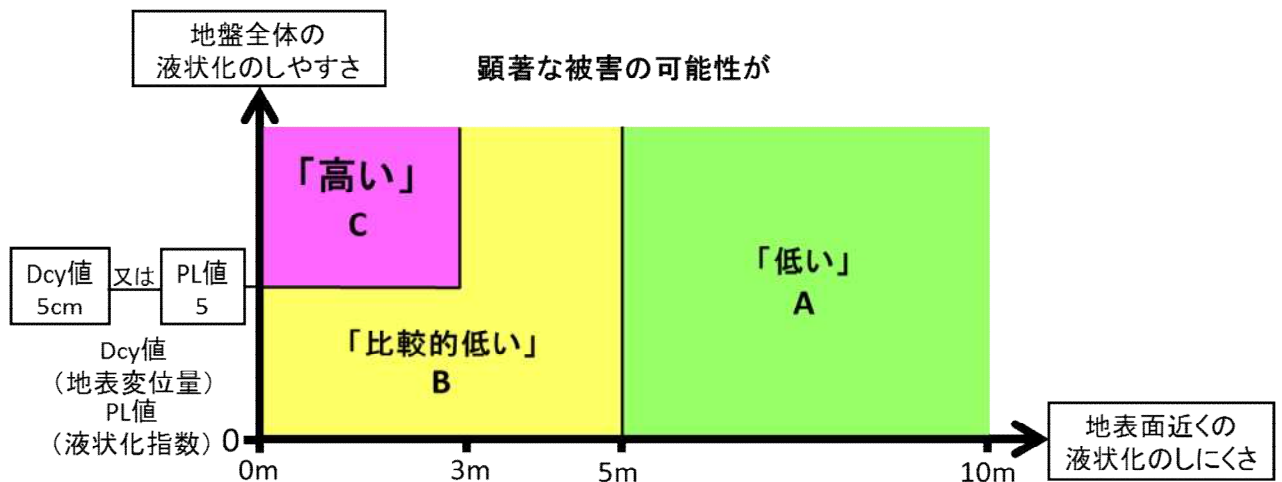
- ①葛飾区内にあること
- ②新築又は建替えであること
- ③木造の場合は階数が3以下、その他の構造の場合は階数が2以下であること
- ④住宅、長屋、共同住宅（店舗併用住宅は面積の1/3以上が住宅）
- ⑤延べ面積が200㎡以下のもの

## 2. 助成額

液状化対策に要した費用の1/2（ただし、限度額は90万円）

## 3. 液状化被害可能性判定基準

地盤調査に基づき、地震時の地表面における地盤変位量（Dcy値）、液状化による危険度（PL値）などを評価し、**顕著な被害の可能性が「高い」又は「比較的低い」と判定がなされたものが、液状化対策助成の対象となる。**（下図は平成25年国土交通省の「宅地の液状化被害可能性判定に係る技術指針」を準用しています。）



※宅地の液状化被害の可能性の程度を目安を示すもので、個別には建物特性等によって被害の発生状況は異なり、被害の有無等を保証するものではありません。

## 4. 液状化対策

国の技術指針に従い、顕著な被害の可能性を「低い」にすることを液状化対策とし、液状化層の土とセメント系固化材を混ぜた改良体を非液状化層に到達させることをいう。

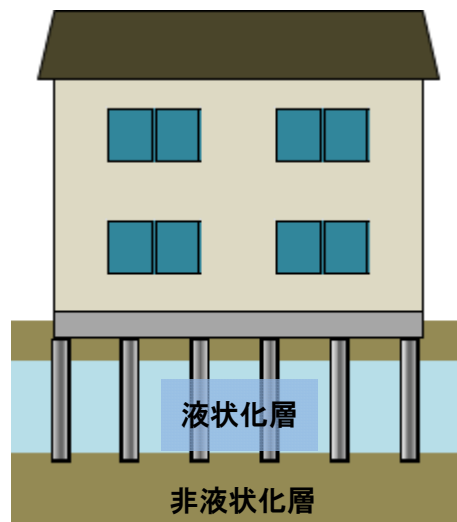
工事行う前に手続きが必要です。

## 5. 液状化層

地盤の液状化に対する安全率（ $Fl$  値）が 1.0 以下の層。

## 6. 非液状化層

- ① 安全率  $Fl$  値が 1.0 を超える層。
- ② 細粒分含有率が 35% を超える層。（粘性土層など）



参考図

## 7. 用語の説明

※ $D_{cy}$  値：地震時の地表面における地盤の変位から、地盤の沈下量や液状化の程度を評価する。

$D_{cy}$  値が大きいほど液状化被害の可能性が高い。

※ $PL$  値：各深さにおける土層ごとに算出される  $FL$  値をもとに、深さ方向に重みをつけて足し合わせて液状化の危険度を示す。 $PL$  値が大きいほど液状化被害の可能性が高い。

※ $FL$  値：設計上での地層が液状化するかどうかを判定する指標。

$FL$  値  $\leq 1.0$  で液状化する可能性があるかと判定。

※細粒分含有率：土中にある粒子のうち、0.075 mmふるいを通過した粒子の含有質量百分率。